令和８年度　　細谷小学校　　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で，自ら考え正しく判断し，豊かな心でたくましく生きる児童の育成
≪目指す児童像≫
・明るく思いやりのある子（豊かな心の育成）　【やさしく】
・健康でねばり強い子（健康・体力の向上）　【つよく】
・よく考え進んで学ぶ子（基礎学力の定着）　【かしこく】

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化に向け，児童一人一人が自分のよさや可能性を認識しながら，他者を価値ある存在として尊重し，多様な人々と協働し，持続可能な社会の創り手となる能力を育む特色ある教育活動の展開に努める。また，様々な社会の変化に適切に対応し，児童の学びを保障するとともに，安全・安心で誰からも信頼される学校を目指す。

そのために，「優しさと笑顔がいっぱいの学校」を合言葉に，全教職員が教育的愛情と専門職としての自覚と使命感をもって確かな指導力を身に付け，和の信頼関係のもとで協働するとともに，家庭や地域と連携を深めながら「チーム細谷」としての力を高め，児童はもとより，教職員，保護者，地域住民にとって魅力のある，活気と創意に満ちた学校づくりを推進する。

「チーム細谷」による優しさと笑顔がいっぱいの学校づくり

３　学校経営の方針（中期的視点）

（１）児童一人一人が自分のよさや可能性を認識し，自己有用感を高めながら夢や目標に向かってねばり強く努力できるよう，全ての教育活動を通して認め励ます指導を推進する。
（２）児童に確かな学力を身に付けるため，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するとともに，発達段階や個に応じたきめ細かな指導に努める。
（３）児童に規範意識，思いやり，挑戦する心やあきらめない心などのたくましさを育むため，道徳教育と関連を図りながら，学校行事や体験活動，異学年や地域との交流活動を実施する。
（４）児童に健康で安全な生活を送ることができる資質・能力を育むため，自分の健康や体力への関心をもたせ，心身の健康を心がける指導や運動の日常化を促進する指導の充実を図るとともに自らの命を守り抜くために危機を回避する能力の育成を推進する。
（５）学校と家庭，地域が連携を深められるよう，魅力ある学校づくり協議会を通した一層の地域教育力の活用や，積極的な情報発信により，地域とともにある学校づくりを推進する。
（６）社会の変化に対応する力の育成を目指し，英語教育，プログラミング教育，宇都宮学，キャリア教育，情報モラル／デジタル・シティズンシップ教育など，新たに求められる教育活動を適切に展開するとともに，SDGs に係る現代的な課題等に対応し持続可能な社会づくりに向けた意識の涵養に努める。
（７）教職員がキャリアやよさを生かし，健康で生き生きと本来の職務に専念できるよう，協働的運営の推進と学校業務の焦点化を図るとともに，全教職員の共通認識のもとで校務の見直しや精選，効率化を進めるなど，勤務時間を意識した取り組み方を推進し，ウェルビーイングな職場の実現に努める。

【宝木地域学校園教育ビジョン】
「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します
～他を思いやる心や規範意識を育み，
基本的生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導の充実～

４　教育課程編成の方針

（１）　日本国憲法・教育基本法・学校教育法・同法施行規則並びに小学校学習指導要領・県教育委員会の方針・市第２次学校教育推進計画後期計画を受け，本校の教育目標の達成を期し，令和８年度指導の重点等を踏まえるとともに，本校や地域の実情，児童の実態等を考慮しながら，「生きる力」を育む知・徳・体の調和のとれた教育課程を編成する。
（２）　義務教育９年間における発達段階に即した指導と，地域学校園教育ビジョンの実現を図るため，地域学校園内の小中学校と連携して小中一貫した教育課程の編成に努める。
（３）　教育活動の質の向上と発展に資するよう，学校評価をはじめとした各種評価，学力調査や質問紙調査

の分析結果等を踏まえて課題を明確にし，教育課程の改善と充実を図る。
（４） 社会に開かれた教育課程を意図し，地域社会や保護者等の願いを考慮して教育課程を編成するとともに，本校の目標や特色ある教育活動等についての発信に努める。
（５） 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成することができるよう，教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントの充実に努める。
（６） 感染症や災害等の緊急事態などに適切に対応しながら児童の学びを保障できるように，ＧＩＧＡスクール構想のさらなる充実に努めるとともに，指導形態や指導法を工夫する。

５ 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営
・自己有用感を高める指導を，家庭，地域と連携しながら全教育活動を通して推進する。
・道徳科の授業や児童主体の集会等を通して，いじめを生まない指導・支援の充実を図るとともに，自己効力感を高める活動や個別支援の充実を図る。
・情報モラル/デジタル・シティズンシップ教育の推進と GIGA スクール構想のさらなる充実を図る。
・ＡＬＴを積極的に活用した英語教育や郷土愛を育む宇都宮学を推進する。
・読書の励行を推奨し，語彙力や想像力，共感力の向上を図るとともに，豊かな心の醸成を促進する。
・積極的な情報発信と地域教育力の活用を通して地域とともにある学校づくりを推進する。
・地域の特色や教育的資源を活用した「チーム細谷」としての力を一層高めるとともに，教職員の業務量管理と健康確保措置の実施のため，時間目標を具体的に設定し，学校の働き方改革を推進する。

（２）学習指導
・児童一人一人が自らのよさに気付き，伸ばすことができるようにする指導の工夫
○主体的・対話的で深い学びの実現に向け，「宇都宮モデル」を活用した授業の展開と工夫改善
・安心して考えを伝え合い，互いに高め合える学び合いの重視
○基礎・基本の確実な習得を図るための，朝のスキルタイムの充実や漢字・計算オリンピックの実施，家庭学習の習慣化
・一人一台端末などのデジタル機器の積極的な活用を通した技能の向上と情報モラルの育成

（３）児童生徒指導
・認め合い励まし合う中で，児童一人一人が，身に付けた力を発揮して自分への自信を深められる集団づくり
・豊かな体験活動や交流活動の重視と，それらとの関連を図った道徳科授業の充実
・将来の進路や自己の在り方について，考えを深められる機会(宮・未来キャリア教育)の充実（「宮っ子『夢』教室」等の活用）
・明るいあいさつや，時と場に応じた正しい言葉遣いができるようにする指導の充実
○規範意識や正義感を高め，基本的な生活習慣やマナーを身に付ける指導の充実
○相手の気持ちを考え，正しく判断して行動する児童の育成（いじめを生まない指導の推進）
・心の変化や SOS への早期対応と，特別な配慮を要する児童（不登校含む）の共通認識に基づく対応やきめ細かな指導
・Q-U の結果や教育相談内容の共有と個別支援への即時活用

（４）健康（体力・保健・食・安全）
・自分で目標を立て，達成に向けて粘り強く取り組むことができる活動の工夫
○自分の体力について関心をもち，自ら進んで運動に取り組む指導の充実
・自らの健康への関心を高め，感染症の予防を含めた生活習慣を身に付ける指導の工夫
・望ましい食習慣を身に付けるための，給食の時間や各教科の指導の工夫と家庭との連携
・児童が安全を心がけ，自ら危険を予測して回避できる行動力を身に付ける訓練や指導の充実

６　自己評価　A1～A20は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。」 ⇒児童，教職員，保護者の肯定的回答率 85%以上	１「きらきら細谷っ子学習の約束」に基づき，話の聞き方「話す人の方に目と体を向ける」「最後まで聞く」発表の仕方「手を挙げて，ゆっくりはっきり話す」「丁寧な言葉で話す」の徹底を 図る。 ２ 児童が意欲的に授業に取り組めるよう，校内研修会を通して教職員の共通理解を図りながら，導入を工夫したり，学び合いの場を設定したりするなど授業形態を工夫する。 ３ 授業の中に発表や話合い活動の場を意図的に設定し，ICT を効果的に活用することで，児童が考えを比較したり深めたりすることができるよう，教師のコーディネートを工夫するとともに，児童の学びのよさを褒めて伸ばすことで，主体的な学習態度を実現できるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】
１－（２）豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は，思いやりの心をもっている。」 ⇒児童，保護者，地域住民の肯定的回答率 85%以上	１「きらきら細谷っ子生活の約束」に基づき，「相手の気持ちを考えて生活する」ことの徹底を図るとともに，友達の名前について敬称（～さん）を付けたり，丁寧な言葉遣いができたりするよう学校全体で進めていく。 ２ 教師が児童に対し，励ます言葉掛けや作品へのコメントの記入など全教育活動を通して行い，自尊心や自己有用感を高めていく。また，「自己有用感」という言葉について家庭や地域に積極的に発信をし，家庭，地域とも連携して児童の自己有用感を高められるようにする。 ３ 道徳の時間や帰りの会において自他のその日の振り返りをさせたり「ホッと細やっこコーナー」を活用したりして，認め励まし合う場を多く設定し，児童一人一人が自らのよさに気付き，自信がもてるようにする。 ４ 心の教育（なかよし班活動，高齢者，聾学校，幼稚園との交流など）を積極的に行い，豊かな感性の醸成を図れるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ａ３　児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童，保護者の肯定的回答率 85%以上	１ 教科の学習や特別活動等の様々な場面で，児童一人一人にめあてをもたせ，活動にあたらせる。活動後に振り返りを行い，自己評価したり友達の良い取組を共有したりすることを通して最後まで頑張る態度を育てる。 ２ 自学ノートや漢字ノートの頑張りを掲示するなどして，学級に紹介し，目標達成や自己成長を促進する。 ３ 目標や将来に向かうためのキャリアパスポートを活用し，家庭から励ましのコメントをもらうなど家庭と連携して，目標をもって頑張る児童の育成をしていく。 ４ 児童の頑張っている様子を，保護者 に知ってもらえるよう，各学年の学習や行事の様子を各種たよりや学校ホームページ等で積極的に伝えていく。 ５ 年２回の「細谷っ子表彰」を通して，目標達成に向けて努力している児童を称賛する。		【達成状況】 【次年度の方針】
１－（３）健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート児童生徒は，健康や安全に気を付けて生活している。 ⇒児童，保護者，地域住民の肯定的回答率 85%以上	１ 保健委員会からの呼び掛けや生活習慣チェック等を通して，児童が自分の健康状態に意識をもち，生活習慣（食事・運動・歯磨き・感染症の予防等）を見直していけるようにする。また，健康診断後，必要な検査や治療について確実に連絡し，早期受診を推進する。 ２ 児童の安全への意識を高めるため， 多様な避難訓練を実施する。また，避難訓練の事前指導の充実を図ったり，日々の生活の中で危険を感じた経験を学級で共有したりする時間を設ける。 ３ 栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を目標とし，学校給食と教科等との関連を図った指導を行う。また，保健だより等を通して自他の健康や安全に気を付けながら自己管理できるよう声を掛けていく。 ４ 避難訓練や給食指導をしている様子を保護者へ発信し，学校での様子を学校と保護者で共有し保護者への啓発活動を充実させる。		【達成状況】 【次年度の方針】

1－（4） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　児童は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童，教職員の肯定的回答率 85%以上	１　学校教育の様々な場面で，個人の目標だけでなく，学級や集団としての目標を設定し，みんなで協力して目標に向かって努力する経験を積み重ねられるようにする。また，運動会，係活動，委員会活動などの特別活動を中心に，個人や集団のめあてを具体的にもたせるとともに，定期的な振り返りを実施し，友達と伝え合うことで充実した活動につなげていく。 ２　集団の目標が達成できた成功体験を数多く経験できるように，他者のために活動できる喜びを体得できる活動を意図的に設定するとともに，結果よりも頑張った過程を認め励ますことで自己肯定感を高めていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
2－（1） グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成する教育の推進	Ａ６　児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は，英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童，教職員の肯定的回答率 85%以上	１　担任と ALT の事前打合せを十分に行い，授業の中で，ALT と児童，担任と児童，児童同士が英語を使ってやりとりをする場面を意図的に設ける。 ２　ALT と交流できる昼休みを設けるなどして，児童と ALT が会話する機会を増やし，英語を使うことを日常化する。また，放送委員会と協力し，世界の行事や文化について紹介したり，給食の時間に英語の歌を流したりするなど，英語に親しむ機会を増やす。 ３　ALT による読み語りを行ったり，学年・学級の実態に応じて，朝の時間に歌やゲームで英語に触れる時間・コミュニケーションを図る時間などを設けたりし，英語に親しむことができるようにする。 ４　外国語活動や外国語に関する校内研修の機会を充実させ，教師の授業力向上を図る。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ７　児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は，宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童，保護者の肯定的回答率 85%以上	１　生活科や社会科，総合的な学習の時間などで身近な地域や宇都宮全域に関する学習をする際に，そのよさについての教材研究を十分に行う。 ２　郷土に因んだ給食（宮っ子ランチや行事食）を通して，宇都宮の農産物や歴史などに触れ，郷土愛や食文化を育むようにする。 ３　学校ホームページ内「宇都宮学コーナー」をより充実させ，学習の様子を保護者が知る機会を増やしていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
2－（2） 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　児童は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童，教職員の肯定的回答率 85%以上	１　GIGA スクール構想の推進に向け，各教科等で，個人用パソコンやインターネット等を効果的に活用する授業を年計に位置付けて意図的に行うとともに，家庭内での活用も促してデジタル・シティズンシップ教育の推進を図る。 ２　担任と図書館司書が連携して，学習に必要な本を用意したり，調べ学習の場を工夫したりして，児童の学びを深める。		【達成状況】 【次年度の方針】

2－（3） 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　児童は,「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は,【持続可能な社会】について，関心をもっている。」 ⇒児童，教職員の肯定的回答率 80%以上	1　生活科や社会科及び総合的な学習の時間，道徳等に，水や電気，資源について学ぶ機会を通して，それらを大切する態度を育てる。 2　児童に対して，授業の内容と関連させながら「持続可能な社会」というキーワードを意図的に用いる。 3　環境美化委員会の活動で，節電・節水・リサイクルを呼び掛ける放送やポスター作成などを通して SDGs を推奨し,「持続可能な社会」について，関心を深めさせるようにする。 4　避難訓練などを通して，災害の実際や災害への備え等について身近な問題としてとらえ，対応について考えることができるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】
3－（1） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	Ａ10　教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は，特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて，適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	1　担任は，特別な支援を必要とする児童の実態の把握に努める。 2　打合せでの情報交換，ケース会議や教育支援委員会を通して，教職員間での情報共有を図り，児童一人一人の困り感に寄り添うとともに，早期発見と児童理解に努め，各関係機関と連携を図りながら個に応じた組織的支援を行っていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
3－（2） いじめ・不登校対策の充実	Ａ11　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。」 ⇒児童，保護者，地域住民の肯定的回答率 85%以上	1　教育活動全体及びいじめゼロ強調月間（5 月・9 月）の取組を通して，児童に「いじめは決して許されない」ことを徹底指導すると共に保護者に対しても学校での取組を知らせていく。また，いじめアンケートを年間４回実施し，早期発見に努める。 2　児童指導に関する話合いを定期的に開催し，児童指導主任を中心として組織的にいじめの早期発見・早期対応に努める。 3　道徳の時間や交流活動で学んだことが生かせるような学級経営を心掛け，児童同士の温かい人間関係を醸成する。 4　いじめに関する校長講話や学校での取組をたより等で保護者や地域にも発信していくことで，理解と協力を得ていく。 5　いじめアンケートで把握したことや児童同士のトラブル等について家庭と情報共有を行い，連携しながら児童指導に取り組む。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ａ12　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。」⇒児童，保護者の肯定的回答率 85%以上	1「1 日欠席でさくら連絡網，2 日欠席で電話」を基本に，家庭との連絡を密にとるとともに，児童に対してはクラスルームを活用して連絡をするようにする。 2　不登校の原因がどこにあるのか，児童と話し合う時間を十分にとることと，それを取り除く配慮に努める。 3　教室に入りにくい児童には，保健室等，教室以外の居場所を提案し，不登校にならないよう配慮する。 4　週１回の打合せ時に問題行動等，月１回の職員会議時に不登校状況等についての伝達を行い，全職員で情報を共有し，全教職員で対応にあたる。また，各種関係機関とも連携を図り，個に応じた対応を組織的に行っていく。 5　新たな不登校を生まないためにも温かい学級経営に努めるとともに Q-U や教育相談等で気になる児童がいた場合は，職員間や家庭との情報共有を行い，不登校の予防に向けた初期対応を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
3－（3）外国人児童生徒等への適応支援の充実 3－（4）多様な教育的ニーズへの対応の強化	Ａ13　学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。」⇒児童，保護者，地域住民の肯定的回答率 85%以上	1　児童一人一人のよさを認め，居がいのある学級づくりに努める。 2　児童や地域の実態を踏まえて，前年度の評価結果と反省をもとに，教育課程を編成する。 3　児童が，あいさつ運動，集会活動，クラブ活動，委員会活動など学校行事や特色ある教育活動などに意欲的・主体的に活動できる場の設定と計画を立て，サポートする。		【達成状況】 【次年度の方針】
4－（1）教職員の資質・能力の向上	Ａ14　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。」⇒児童，保護者の肯定的回答率 85%以上	1　基礎・基本の定着を図るために，授業のねらいを明確にし，まとめや振り返りで確認する。 2　「振り返りの言葉」を学校統一で活用することで，本時の学習を振り返り，児童が自分の学びを具体的に捉えられるようにする。 3　ICT やワークシート等を生かし，分かりやすい授業づくりに努めるとともに，児童一人一人の学習状況を確認し，実態に応じた指導ができるよう教材研究に努める。 4　授業の最初に，その授業の流れをミニホワイトボードに示し，児童が学習の見通しをもつことができるようにするなどユニバーサルデザインに基づいた授業づくりに努める。 5　チームティーチングや少人数指導，習熟度別学習，かがやきルームでの指導を通して，児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】

４－（２） チーム力の向上	Ａ15　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率85%以上	１　全教職員が協力して学校運営に参画し校務に当たるとともに，教職員の得意分野や経験を生かし，全校体制で組織的に運営していく。 ２　自己評価シートの作成を通して学校経営への参画意識をもち，担当校務分掌に主体的に取り組み，組織的な運営に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】
４－（３） 学校における働き方改革の推進	Ａ16　勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率85%以上	１　勤務時間を意識した働き方をするよう，管理職を中心に声掛けを行う。 ２　ミライムの掲示板を活用した職員間の連絡や，ペーパーレス化に向けた取組を行う。 ３　月２回「リフレッシュデー」を設け，勤務時間の意識化を図る。 ４　業務改善に向けて，行事の反省や話合いを行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
５－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ17　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒児童，保護者，地域住民の肯定的回答率85%以上	１　地域学校園教育ビジョンに基づき各分科会でテーマを決め，適切な活動を行う。また，各分科会の研修内容を全校で共有し，学習指導や生活指導に生かしていく。 ２　乗り入れ授業を実施し，学校園の児童・生徒の学力の向上や学校生活支援において有効に機能させる。 ３　小中合同のあいさつ運動や中学生による行事への参加などを積極的に実践し，地域の活性化を図る。 ４　地域学校園としての取組をホームページ等を活用し，進んで情報発信していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
５－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 ５－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	Ａ18　学校は，家庭・地域・企業等と連携･協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童，保護者，地域住民の肯定的回答率85%以上	１　地域協議会や自治会，育成会，PTA，子どもの家（アドベンチャークラブ）等との連携を進め，特色ある活動の充実を図る。 ２　放課後子ども教室（スマイルほそや）との連携を図り，地域の教育力を生かした体験的な学習活動を行う。 ３　地域ボランティアや地域企業等の協力を得ながら，専門的，体験的な学習活動を行う。 ４　校外学習，オープンスクール，交流学習，ふれ合い活動など，諸活動に参観や参加ができる機会を多く設け，家庭・地域・企業等との連携を深めるとともに，引き続き，学校だよりやホームページ等で紹介し，保護者や地域へ発信していく。 ５　児童の教育活動の支援となるよう，学校支援ボランティアを募集・活用していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ19　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者，地域住民の肯定的回答率85%以上	１　安全点検や日常の観察を通して，施設・設備の安全管理に努める。 ２　さくら連絡網を活用し，児童の安全確保に努める。 ３　緊急避難時に備え，非常階段や防火扉周辺を整理したり，災害備蓄品の管理を徹底したりする。 ４　各種感染症拡大防止や熱中症対策など時期に応じた保健指導や管理に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】

６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ20　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】全体アンケート「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。」 ⇒教職員の肯定的回答率85%以上	１　ICT機器の効果的な活用に努めるとともに，新しい情報や活用方法について ICT 支援員と連携しながら校内掲示板や校内研修等で広く周知し，教職員の指導力向上を図る。 ２　学校ホームページやさくら連絡網を有効活用し，学校情報の提供をしていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ１　児童は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は，時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童，保護者，地域住民の肯定的回答率 85%以上	１　教師自らが児童に明るいあいさつの範を示し，よくあいさつのできる児童について折に触れて称賛する。 ２　あいさつの大切さや意義について児童に指導し，校内外で時と場に応じたあいさつができるようにするとともに，児童会中心のあいさつ運動を実施したり，登校班長会議で班長にあいさつ励行を呼び掛けたりし，あいさつの習慣化を図る。 ３　地域学校園での「合同あいさつ運動」の実施や月１回の「ほかほかあいさつ運動」を充実させるとともに，「細谷小あいさつの日」の設定し，児童へ周知することで，校内外でのあいさつの定着を図る。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ２　児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。」 ⇒児童，保護者，地域住民の肯定的回答率 85%以上	１　「きらきら細谷っ子生活の約束」に基づいた指導を全教職員が行い，全校体制で時間や持ち物等のきまりを守れるようにし，毎月の生活目標の振り返りを朝の会や帰りの会などで行う。また，児童の実態に応じて，「きらきら細谷っ子生活の約束」の見直しと改善を行う。 ２　児童会を中心に児童主体できまりを守る大切さを伝える取り組みを行う。 ３　道徳の授業内容を充実させるとともに，ルールやきまりを守ることの必要性を具体的な場面の中で指導する。また，児童会を中心として児童からもルールやきまりを守ることの大切さを発信できるように支援していく。 ４　児童の実態把握に努め，児童の様子について全職員で共有するなど，全校体制による指導の充実を図る。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ｂ３　児童は，音読・漢字・計算の基礎的な学力が身に付いている。 【数値指数】全体アンケート「児童は，音読・漢字・計算の基礎的な学力が身に付いている。」 ⇒児童，教職員，保護者の肯定的回答率 85%以上	１　朝の学習を利用した漢字練習，計算練習，漢字・計算オリンピックの実施（年 2 回）宮っ子学力ステップアップシート，AI ドリル等を活用し，一人一人の学力の向上を図る。 ２　「家庭学習の手引き」をもとに家庭学習の仕方について教師間の共通理解を図ったり，他の児童の自主学習ノートを紹介したりするとともに，懇談会等で家庭学習の大切さなどを話題にし，家庭とも連携を図っていく。 ３　長期休業明けに家庭学習定着の強化を図り，家庭学習の進め方や生活リズムを整えて学ぶ雰囲気づくりを促す。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ４　児童は，授業や休み時間など自分から進んで運動に取り組んでいる。 【数値指数】全体アンケート「児童は，授業や休み時間など自分から進んで運動に取り組んでいる。」 ⇒児童，教職員，保護者の肯定的回答率 85%以上	１　達成感が味わえる授業展開や場の工夫を行って体育の授業を充実させる。 ２　業間にスポーツタイムを取り入れ，基礎体力の向上を図るとともに，活動の様子を学校ホームページに掲載し，家庭に周知する。 ３　長期休業中には、「元気っ子チャレンジカード」等を配布し，継続的に家庭で進んで運動に取り組めるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ５　児童は，進んで読書に取り組んでいる。 【数値指数】全体アンケート「児童は，進んで読書に取り組んでいる。」 ⇒児童，教職員，保護者の肯定的回答率 85%以上	１　朝の読書の時間や，学校支援ボランティア「コスモス会」による読み語り，「家読」の奨励等，本に親しむ機会を設定し，児童の読書に対する興味関心を高める。さらに児童の読書の様子が保護者に伝わるように図書だより等で紹介するとともに，「家読」の啓発に努める。 ２　ブックトークで様々な本を紹介したり，図書委員会等による読書週間でのイベント等を設けたりして，豊かな感性を育む読書活動の推進に努める。 ３　図書室のクラスルームを活用し，イベントの内容や新刊本などの情報を児童に周知し，読書への興味・関心が高まるようにするとともに，学校の取組を家庭に周知する。 ４　宇都宮市電子図書館「読み放題パック」の活用を推進するとともに家庭に周知する。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ６　児童は，学習や仕事を通して，自己有用感を感じ，自己肯定感を高めている。 【数値指数】全体アンケート「児童は，学習や仕事を通して，自己有用感を感じ，自己肯定感を高めている。」 ⇒児童，教職員の肯定的回答率 85%以上	１　学習や仕事において，一人一人に活躍の場を与えてやり遂げさせ，達成感を味わわせる。児童のよさや頑張りが見られた際には，積極的に学級に広めていき，自分が役に立っているという実感をもたせるようにする。 ２　「ホッとほそやっこコーナー」や帰りの会での認め合う場を設定することで，自分や友達のよいところに気付けるようにし，良好な人間関係づくりに努める。		【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7　学校関係者評価

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。